

自死予防対策行動計画総括

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

実施内容・目標	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	現状	課題
自死により、町民の尊い命が失われることがないよう一人ひとりがかけがえのない命の大切さを考え共に支えあう地域社会の実現をめざす								
未遂者も含め自死者数を0にすることを目標とし、誰も自死に追い込まれることのない社会の実現をめざす	H28 0人 H29 1人 H30 1人	0	1人	1人	0人	□	・全国の推移をみると、平成15年の3万4千人をピークに減少傾向にあり、令和元年には2万人を下回ったが、その後の2年間は増加している。 ・自死の多くは、多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きていることを配慮することが重要。 ・吉賀町においても男性が7割を占め、年代では65歳以上が6割を占める。家族構成は8割が同居ありの世帯となっている。 ・65歳以上は健康問題や家庭問題が多い。若年層では、健康問題や職場の問題によるものが多いと推測されている。	
1. 地域におけるネットワークの強化	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
自死予防対策ネットワーク会議開催	年1回	年1回	1回開催	中止(※)	中止(※)	◎	・令和4年度は会議を再開した。 ・自死対策を担う支援機関がそれぞれの役割を踏まえ、効果的な支援が行えるよう連携を取り継続的な支援が行えるような体制づくりが構築できた。	・自死の段階と対象に応じた施策をバランス良く組み合わせて切れ目なく取り組む。 ・「生きることの包括的な支援」として、医療福祉教育産業等の様々な分野の施策や関係機関との連携連動が重要であり、自死対策を地域づくりとして総合的に推進する体制。
庁舎内自死予防対策推進チーム連絡会開催	年1回	年1回	1回開催	1回開催	中止(※)	◎	・精神保健にも対応した包括システムは、全年齢にわたっており、関係機関が有機的につながっている。協議の場(地域移行支援部会)もでき、できていることとできていないことの確認もできた。	
自死未遂者支援対策会議開催	年1回	年1回	1回開催	1回開催	中止(※)	◎		
全世代・全課題対応型地域包括ケアシステム構築	未整備	検討	検討	協議	部会設置	○		
小さな拠点づくり事業	検討	整備中	協議	協議	協議	□		
2. 自死対策を支える人材の育成	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
ゲートキーパー養成	延べ65人	新たに30	1地区25名養成	中止(※)	中止(※)	◎	・令和4年度は育成が進んでいる。 ・自死や自死関連事象に関する正しい知識を普及し、自死の危険を示すサインに気づき、見守る「ゲートキーパー」の役割を担う地域の人材を養成した。	・切れ目ない支援を行うために、自死リスクを有する人の家族や身近で関わりのある人が本人の心身の変化に早期に気づき支援につなぐ。 ・具体的な支援方法について学ぶスキルアップ研修も並行して開催し、学校の教職員、商工会や事業所関係者へも養成研修を行う。 ・地域で身近な誰かが早期に気づく社会の実現をめざすため、一般住民の方のゲートキーパー研修についても検討していく。
ゲートキーパースキルアップ研修	20人参加	新たに30	中止(※)	中止(※)	中止(※)	▼	・町内医療機関や薬局への情報提供は保健所から行われ、ポスター掲示など啓発活動につながっている。	
民生・児童委員への研修	実施	継続	中止(※)	中止(※)	中止(※)	◎		
かかりつけ医、薬剤師等への情報提供	未実施	年1回資料提供	保健所が提供	保健所が提供	保健所が提供	◎		
3. 町民への啓発と周知	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
精神保健をテーマにした講演会の開催(こころの講座)	年1回	年1回	3回 299人	3回 60名	2回 62人	◎	・自死との関連が深いとされるうつ病についての理解度は深まってきていることから、新たに統合失調症やアルコール依存症、ひきこもり等、精神疾患についての理解を深める講座を開催した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業や集まりが中止され孤立や孤独が心配されたため、相談窓口の周知を複数回広報や関係機関等へ配布した。	・「自死は追い込まれた死である。」「地域ぐるみの取り組みで予防できる。」「自死を考えている人はサインを出している。」等、自死に対する正しい認識を持ち、自分達の地域全体の問題という捉え方ができるような啓発を行う。 ・図書館にも心の健康に関する図書は置かれており、今後コーナーとして設置するか協議する。
広報等を活用した相談機関、相談窓口のPR	不定期	年2回	広報で実施	広報で実施	広報で実施	◎		
ホームページの開設	未開設	開設	未開設	未開設	未開設	□		
自殺予防キャンペーンの取り組み	年1回	年2回	年2回実施	中止(※)	町内各所にチラシ配布	◎	・産後うつについては、全数訪問と医療機関との連携でスクリーニング検査を行い、検査の高得点者のフォローに努めた。	
こころの図書の開設	未開設	開設	中止(※)	自死パネル展示	実施無し	□		

※新型コロナウイルス感染症の拡大により中止

自死予防対策行動計画総括

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

4. 生きることの促進要因への支援	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
乳幼児健康相談	実施	継続	定期随時 延べ290人	定期随時 延べ185人	定期随時 延べ91人	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・生きるためのあらゆる支援を行政や関係組織、民間との連携により、推進していくことを目指し、一人一人を大切に支援をしている。 ・子育て支援については、子育て包括支援センターも開設されたことにより、切れ目ない支援をめざして体制づくりができています。 ・心の相談は、精神に関するあらゆる相談が寄せられ、ケースを通じて町内医療機関や福祉関係機関との連携の場にもなっている。 ・松ヶ丘病院通院バスひかり号は、利用者も多く治療中断の防止につながっている。 ・障がい者の居場所と社会参加のきっかけづくりとして、月1回のサポステ出張セミナーのSST 講座も開設でき好評。 ・アルコール問題は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い増加しており、適性飲酒の勧めをした。 ・自死パネル展は、町立図書館でゆっくり見学していただけ、自死や自死遺族に対する理解につながった。 ・在宅の医療電源使用ケースの支援計画など災害時の計画を立てることで日常の安心につながった。 ・社会福祉協議会では、総合的な相談窓口を設けあらゆる相談を受ける総合支援の拠点となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス社会、少子高齢化、核家族化、ネット社会、ストレス緩和の重要な役割を果たす家族、職場、地域での人のふれあいの希薄化、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会から孤立する人の増加など ・こういった様々な要因により、だれもが心の健康を損なう恐れがある。 ・心と体のバランスを崩しやすい青少年が安心して相談できる体制の準備、高齢者の生きがい対策の推進など、関係機関、団体との連携を図り対策を推進していく。 ・相談を受けた方のその後のフォローも丁寧にし、連携して支援にあたる。 ・児童虐待は、長期にわたって管理ケースとなっている家庭が多く、多角的に支援していく。
妊産婦訪問事業	実施	継続	全数 延べ230人	延べ136人	延べ 91人	◎		
育児相談	実施	継続	延べ53人	延べ153人	延べ865人	◎		
子育て交流サロン	実施	継続	月～金 209日開設 延べ 470人利用	月～金191日開設 延べ 499人利用	月～金197日開設 延べ 663人利用	◎		
産後うつ等予防の相談事業	実施	継続	全数 延べ88人に実施	全数 延べ88人に実施	全数 延べ46人に実施	◎		
産後健診の取り組み	実施	継続	40人中24人受診	35人中24人受診	31人中26人受診	◎		
こころの相談の実施	年6回	継続	年6回 延べ7人	年6回 延べ6人	年5回 延べ9名	◎		
医療体制整備 松ヶ丘病院通院バス運行	実施	継続	月4回 実人員24人 延べ183人	月4回 実人員22人 延べ255人	月4回 実人員27人 延べ261人	◎		
心配事相談の実施	年12回	継続	12回 7件	12回 5件	年12回、相談件数2件	◎		
弁護士相談の実施	年12回	継続	12回 38件	12回 39件	年12回、相談件数35件	◎		
行政書士相談の実施	年3回	継続	4回 0件	4回 2件	年4回、相談件数1件	◎		
公証人相談の実施	年2回	継続	2回 0件	2回 1件	年2回、相談件数3件	◎		
障がい者虐待の相談支援の実施	実施	継続	相談6件 認定3件	相談7件 認定3件	相談3件 認定0件	◎		
アルコール依存症者への支援 断酒例会	実施	継続	例会参加	例会参加	例会参加	◎		
アルコール依存者家族への相談支援	実施	継続	延べ 24人	延べ53人	延べ22人	◎		
高齢者の虐待の相談・支援の実施	実施	継続	通報5件、認定2件	通報5件、認定3件	通報4件、認定1件	◎		
難病患者及び家族への相談支援の実施	実施	継続	延べ25人	延べ8人対応	延べ3人対応	◎		
児童相談所等の虐待の相談・支援の実施	実施	継続	管理ケース12件	管理ケース16件	管理ケース13件	◎		
自死未遂者支援対策会議の開催	実施	継続	年1回開催	年1回開催	中止(※)	◎		
自死遺族の支援・啓発パネル展示	実施	継続	中止(※)	3月に実施、6日間	会に参加	○		
いきいき21 吉賀町健康づくり計画の推進	年2回	継続	部会年2回開催 講演会やキャンペーン実施	部会は年1回開催。	部会は年1回開催。	◎		
5. 児童生徒へのSOSの出し方教育	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
命の大切さを学ぶ教育 世代間交流	実施	継続	全校実施	全校実施	小学校で実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の世代との交流により、改めて命の大切さについて学ぶことができた。話を聞いたり聞いてもらうことで、自分のこととして考えることができ、これからの自己の生活の見直しを持つことに繋がった。 ・日々の生活の中でも心の健康について常に意識して継続して取り組んでいる。 ・教職員に対しては、学校単位ではなく町内のいじめの実態把握と傾向について周知を行うことができ、いじめの認知漏れを防止し速やかで適切ないじめへの対応と重大事態発生防止につながった。 ・すべての児童生徒にスクールカウンセラーによる面談を行うことができた。 ・学校支援アドバイザーからは、構内での取り組み体制の整備と生徒の特性理解や接し方の理解が得られ、間接的にはあるが不登校やいじめの防止につながった。 ・メディア教育では、自らのかわり方を振り返りこれからのについて考える機会となった。 ・ひきこもり相談は、定期的に訪問して声掛けをして関係づくりを続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を担う青少年、若年層の自死対策について、心の健康の保持増進や良好な人格形成、生活上の困難、ストレスに直面した時の対処法を身につけること等の支援など予防に資する教育に取り組む。 ・いのちの大切さを学ばせる教育や人権教育といったかけがえのない自他の生命を尊重する教育の充実を図るとともに、教職員がスクールカウンセラーと連携した相談活動、子どもの自死予防の研修を充実させる。
命の大切さを学ぶ教育 総合的な学習時間による学習	実施	継続	全校実施	全校実施	小学校で実施	◎		
自死やうつ病等の精神疾患に関する正しい知識の普及啓発	実施	継続	4校/8校中実施	全校実施	全校実施	◎		
人権教育の実施	実施	継続	全校実施	6校/8校中実施	全校実施	◎		
教職員への研修	実施	継続	全校実施	全校実施	全校実施	◎		
学校への専門職の配置(スクールカウンセラー配置)	全校配置	継続	2名配置	1名配置	2名配置	◎		
学校への専門職の配置(スクールソーシャルワーカー配置)	全校配置	継続	1名配置	1名配置	常勤1名 非常勤2名配置	◎		
いじめ等の相談機関や相談窓口のPR	実施	継続	全校実施	全校実施	全校実施	◎		
いじめ問題対策連絡協議会の開催	実施	継続	1回開催	書面開催	1回開催	◎		
学校支援アドバイザーの設置	実施	継続	アドバイザー4名委嘱	医師より助言2回	アドバイザーの派遣により、指導を受ける	◎		
いじめ対応支援事業の実施	実施	継続	全校実施	全校実施	全校実施	◎		
メディアリテラシー教育・情報モラル教育の実施	実施	継続	全校実施	5校/8校中実施	全校実施	◎		
ひきこもり相談	月1回、随時	継続	実人数35人延べ177人	実人数21人延べ160人	実人数26人延べ329人	◎		

※新型コロナウイルス感染症の拡大により中止

自死予防対策行動計画総括

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

重点施策1 高齢者対策	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
ふれあいサロンで心の健康をテーマにした啓発の取り組み	未実施	5地区	35地区 延べ3776人 心の健康啓発 1地区	35地区 延べ2812人 心の健康啓発 0地区	35地区延べ2455人 心の健康啓発 0地区	□	<p>・地域のボランティアで運営されている地区サロンは、町内ほぼ全地区で開催され、高齢者のひきこもり予防や交流、居場所づくりとなっている。</p> <p>・地域包括支援センターでは、高齢者に関する様々な相談を総合的に受け止め、適切なサービスにつなぎ、高齢者やその家族を支援している。</p> <p>・見守り相談員や軽度生活援助事業、小地域ネットワーク事業など地域で見守りや生活の援助を受ける制度が確立して安心につながっている。</p> <p>・シルバー人材センターは、男性会員が多く生涯現役をめざして活動されている。</p> <p>・各種介護予防事業は、高齢者の筋力低下や認知症予防及び地域での孤立やひきこもりを予防し居場所づくりにもなっている。</p> <p>・各公民館でも健康づくりや生きがい事業が展開され、地域づくりと社会教育の場になっている。</p>	<p>・高齢期は心身の衰えにより、ひきこもりや人とのかかわりが億劫になり、地域で孤立しやすい。交通手段が確保できないことでこれらの問題をさらに増幅させるので、社会活動に参加し、楽しいと思えるような事業の取り組みや行動範囲が制限されない生きるための促進因子を増やす体制整備を他計画と連動して取り組む。</p> <p>・町内でも周辺地域にうつや閉じこもりがちな高齢者の割合が高い傾向にある。幸福感を感じている方は、4割弱と低い。</p>
地域包括支援センターにおける相談・支援の実施	実施	継続	総合相談新規 233件 後見相談 29件 施設サービス相談84件 要支援者・事業対象者2,820件	総合相談新規 136件 後見相談 3件 施設サービス相談 7件 要支援者・事業対象者 2,410件	総合相談新規 119件 後見相談 9件 施設サービス相談 4件 要支援者・事業対象者1970件	◎		
認知症高齢者家族の会の支援	年12回	年12回	6回開催	6回開催	6回開催 カフェ2回開催	□		
高齢者虐待の相談・支援	実施	継続	コア会議 7件 12回 専門職チーム相談会5回	コア会議 5件10回 専門職チーム相談会5回	コア会議 10件23回 専門職チーム相談会8回	◎		
見守り訪問員制度の実施	登録者20名	登録者30名	登録実働者 20名 契約利用者 8名	登録実働者 7名 契約利用者 9名	登録実働者 9名 契約利用者 10名	▼		
軽度生活援助事業の実施	実施	継続	延べ利用者 36名 延べ協力者 48名 作業内容 居室の清掃、除草等	延べ利用者 36名 延べ協力者 48名 作業内容 居室の清掃、除草等	延べ利用者 54名 延べ協力者 82名 作業内容 居室の清掃、除草等	◎		
元気旗挙げ活動の実施	14地区	21地区	14地区	15地区	25地区	◎		
シルバー人材センター事業の実施	会員76名	会員102名	会員数 80名 受注件数 688件	会員数 91名 受注件数 749件	会員数 90名 受注件数 757件	□		
ボランティアセンター事業の実施	実施	継続	福祉ゾーン清掃110名 配食ボランティア 121名 調理ボランティア 43名	福祉ゾーン清掃中止 配食ボランティア 104名 調理ボランティア 41名	福祉ゾーン清掃中止 配食ボランティア 112名 調理ボランティア 41名	◎		
各種介護予防事業の実施 介護予防ポイント参加者	289人	320人	314人	244人	229人	▼		
百歳体操の実施	26グループ	35グループ	29グループ	29グループ	30グループ	□		
地域ケア会議の推進 個別ケース会議の開催	実施	継続	個別ケース会議 3件	個別ケース会議 1件	個別ケース会議 1件	◎		
地域ケア会議の推進 ケアマネジメント支援会議の開催	実施	継続	11回	11回	11回	◎		
集いの場の開設(小さな集い)	未開設	開設	未開設	3か所	40か所	◎		
各公民館による健康づくり・生きがい事業の実施	各3事業	各3事業	教室年数回実施 自主サークルや余暇活動の拠点	教室年数回実施 自主サークルや余暇活動の拠点	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い縮小 地域での重要な集いや交流の場所	○		
重点施策2 生活困窮者対策	策定時の値	目標値	R1年度	R2年度	R3年度	達成度	成果	課題
生活保護施行に関する事務	実施	継続	申請件数 7件 開始件数 3件 廃止件数 6件 年度末 26世帯	申請件数 4件 開始件数 3件 廃止件数 7件 年度末 22世帯	申請件数 5件 開始件数 4件 廃止件数 4件 年度末 22世帯	◎	<p>・生活保護、生活困窮者自立支援事業により、様々な支援を一体的かつ計画的に行うことにより自立の促進を図っている。</p> <p>・就労に向けた講座を開設し、基礎能力の形成からの支援を計画的に行った。</p> <p>・事業所の健康づくり講座に2か所出向いて行い、働き盛りの方の健康意識の向上につながった。</p>	<p>・生活困窮者や青壮年期の多重債務や精神疾患、長期療養疾患等にかかる医療費負担、介護等の問題が多く、自死のリスクを抱える人が少なくない。</p> <p>・ストレス解消法を持っている人は男性が多いが、相談相手がいる人は女性が多い。</p> <p>・睡眠が十分にとれてない方も30代40代で多く見られている。(健康アンケート)</p> <p>・生きることの阻害因子を減らす支援策を充実する。</p> <p>・生活困窮状態にある方が、単に経済的に困窮しているだけでなく、自身の健康や家族との人間関係、ひきこもりなど他の様々な問題を抱えた結果自死に追い込まれてしまうことが少なくないと考えられ、経済や生活面の支援のほか心の健康や人間関係等の視点も含めた包括的な支援を行う必要がある。</p>
生活保護各種扶助事務	実施	継続	生活扶助費17,017千円 医療扶助費41,096千円 介護扶助費2,116千円	生活扶助費15,272千円 医療扶助費41,825千円 介護扶助費1,234千円	生活扶助 14,077千円 医療扶助 27,508千円 介護扶助 971千円	◎		
生活困窮者自立支援事業： 自立相談支援事業	実施	継続	新規8件(男4・女4) 電話連絡120回 訪問・同行支援81回 面接65回 他機関との調整7回 その他18回	新規21件(男13・女8) 電話連絡118回 訪問・同行支援92回 面接57回 他機関との調整4回 その他16回	新規36件(男16・女20名) 電話連絡 73回 訪問同行支援 129回 面接 72回 他機関との調整 6回 その他 49回	◎		
生活困窮者自立支援事業：住居確保給付金	実施	継続	0件	1件	0件	◎		
生活困窮者自立支援事業：一時生活支援事業	実施	継続	－(実施していない)	－(実施していない)	－(実施していない)	□		
生活困窮者自立支援事業：子どもの学習支援事業	実施	継続	－(実施していない)	－(実施していない)	－(実施していない)	□		
生活困窮者自立支援事業：就労準備支援事業	実施	継続	27件	77件	111件	◎		

自死予防対策行動計画総括

《達成度 ◎:達成 ○:改善 □:変化なし ▼:悪化》

生活困窮者自立支援事業： 就労準備支援事業	実施	継続	相談対応 15回 支援機関との合同面接・ 打ち合わせ 6回 企業訪問 5回 その他 1回	相談対応 77回 就職活動支援 22回 就労支援 35回 その他 20回	相談対応 89回 就職活動支援 22回 就労支援 12回 その他 10回	◎	
家計改善支援事業(生活福祉資金貸付事業)	実施	継続	総貸付件数18件 新規貸付件数 2件 新規貸付決定額 200,000円 償還終了件数 2件 相談受付件数 32件	総貸付件数12件 新規貸付件数 22件 新規貸付決定額3,020,000 円 償還終了件数 3件 相談受付件数 18件	総貸付件数 26件 新規貸付件数 5件 新規貸付決定額1,680,000 円 償還終了件数 0件 相談受付件数 9件	◎	
貸付事業の実施(民生融金)	実施	継続	貸付件数 18件 新規貸付件数 7件 償還終了件数 7件	貸付件数 26件 新規貸付件数 9件 償還終了件数 10件	貸付件数 17件 新規貸付件数 13件 償還終了件数 4件	◎	
心配事相談の実施(福祉なんでも相談)	年12回	年12回	12回 7件	12回 5件	12回 2件	◎	
弁護士相談の実施	年12回	年12回	12回 38件	12回 39件	12回 35件	◎	
行政書士相談の実施	年3回	年3回	4回 0件	4回 2件	4回 1件	◎	
公証人相談の実施	年2回	年2回	2回 0件	2回 1件	2回 3件	◎	
事業所の経営相談の実施	随時実施	継続		町商工会2490件	町商工会1574件	◎	
事業所従業員のストレスチェック	年1回	年1回	事業所健診で実施。2日間で 163人に実施。	中止(※)	中止(※)	□	